

令和7年度 福井県こども・子育て応援会議 次第
(書面開催)

≪ 議 題 ≫

(1) 「福井県こども・子育て応援計画」の概要および令和7年度事業について
参照：資料1～3

(2) ふく育推進チームの活動状況について
参照：資料4
(一部資料調整あり)

(3) 「福井県こども・子育て応援計画」の一部改訂について
参照：資料5

(4) 「福井県こども・子育て応援計画」に関する取組について
参照：資料6

【会議資料】

- 資料1 「福井県こども・子育て応援計画」(概要)
- 資料2 事業一覧
- 資料3 令和7年度主要施策
- 資料4 ふく育推進チームの活動状況
- 資料5 「福井県こども・子育て応援計画」の一部改訂について
- 資料6 福井県こども・子育て応援計画に関する取組について
(参考) 福井県こども・子育て応援計画 (リーフレット版)
(参考) 福井県こども・子育て応援計画 (やさしい版)
(参考) 福井県こども・若者政策マインド

1 趣旨

子育ての幸せや楽しさが実感できる社会の実現に向け、全てのこども・若者の社会参画や権利擁護を図りながら、子育て当事者も含めて一人ひとりの多様な夢や希望を社会全体で応援する風土を醸成し、支援団体や関係機関、市町等と協働して、こども・子育て施策を総合的に推進する。

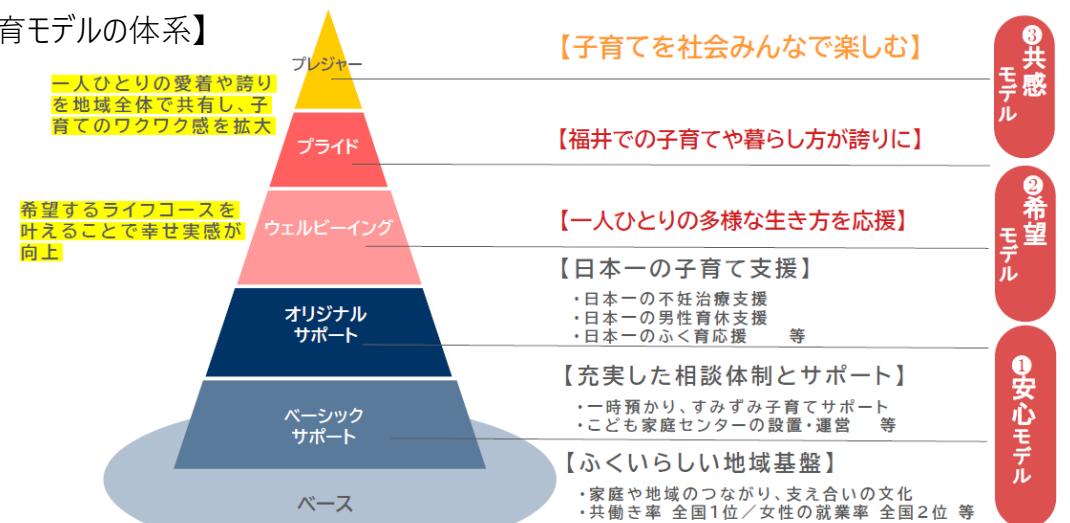
2 計画期間 令和7年度から令和11年度（5年間）

3 基本理念

こども・子育ての“よろこび”を 次世代につなぐ「ふく育県」へ

家庭や地域のつながりを大切にする福井らしい子育て環境を基盤とし、こども・若者や子育て世代一人ひとりの多様な夢や希望が叶う社会の実現を図ることにより、社会全体でこどもの“よろこび”・子育ての“よろこび”を分かち合い、次世代につないでいく「ふく育県」を目指す

【ふく育モデルの体系】



【総合評価】

評価項目	現状 (R5)	目標 (R11)
ふく育県の評価	72.8%	現状値以上
将来こどもを持ちたいと考えている県民の割合	40.7%	60.0%

4 政策モデルと最重点プロジェクト

一人ひとりの安心と希望を追求し、共感を広げていく \ 3つの「ふく育モデル」 /

I ふく育安心モデル

一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない社会

【最重点プロジェクト】

■ こどもの安全・安心を確保

- ひとり親や多胎児、医療的ケア児など様々な家庭環境におかれたこども・若者に寄り添った支援
- 安心できる多様な居場所づくりへの支援

■ 安心の子育て環境を確保

- 保育人材確保と教育・保育の質の向上
- 様々な家庭の子育てをきめ細かに支える「ふく育さん」・「ふく育タクシー」や「すみずみ子育てサポート事業」の充実
- 産後訪問やこども食堂を介した見守り活動など、アウトリーチ型支援の実施
- 必要な情報を適切なタイミングで届ける仕組みづくり

II ふく育希望モデル

一人ひとりの夢や希望が叶い、幸せを実感できる社会

【最重点プロジェクト】

■ こども・若者の夢や希望を応援

- 若者の恋愛気運の醸成・出会いの機会の拡充
- こども・若者や子育て世代への伴走的な支援に取り組む団体への応援

■ こども・子育ての幸せ実感を実現

- 将来の妊娠のための健康管理（プレコンセプションケア）からスタートする「ゆりかごから巣立ちまで」の切れ目ない支援の推進

III ふく育共感モデル

子育ての“よろこび”が生まれ、広がっていく社会

【最重点プロジェクト】

■ 社会全体でこども・子育てを応援

- 市民主体のこども・子育て応援イベントのつなぎや情報発信の応援
- 時短勤務や男性育休など多様な働き方の拡大により、誰もが仕事と家庭を両立できる社会の実現
- こども・若者目線での政策形成機運の醸成

■ 子育てのワクワク感を増大

- こどもたちがいつでも楽しめる全天候型遊び場を全市町で整備
- 福井県児童科学館等の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討

「福井県こども・子育て応援計画」 施策の方向性

★こどもの意見反映
●新規・拡充等重点的に取組む施策
○継続して取組む施策

I 一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない「ふく育安心モデル」の実現

I-1 こどもの安全・安心を確保

【こども・若者主体の社会づくり】

- こどもの教育・養育の現場におけるこどもの権利等に関する理解促進と意見聴取の推進
- こどもが行きたくなる学校づくりなど「誰一人取り残されず、個性が尊重される学び」の推進
- ★●こどもの安全安心のための見守り活動の推進 など

【一人ひとりの環境に寄り添った支援の充実】

- ★●養育に困難を抱える家庭への支援を拡充し、児童虐待防止等の取組みを強化
- ★●ヤングケアラーなどが生きづらさを抱えたときに集える相談・居場所拠点の確保
- 生活困窮世帯やひとり親家庭児童への学習・生活支援の充実
- ★●親を頼ることができないこどもたちの家庭的で安定した生活環境の場の確保
- ★○入所児童の退所後を見据えた自立支援と退所後も支え合えるネットワークの構築
- ★○青少年の非行防止活動と有害環境対策などによる健全育成の推進 など

【こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携】

- ★●放課後児童クラブ、放課後等デイサービス事業所など、家庭でも学校でもない多様な居場所づくりへの支援
- ひとり親、多胎児、発達障がいや医療的ケアなど様々な家庭環境に応じた支援の充実
- 児童相談所、市町、施設等こどもに関わる支援者の研修・交流拠点の設置
- ★○介護、障がい、子育て、生活困窮などの支援機関が連携した協働支援体制の構築
- 母子保健・児童福祉の一体的相談支援を担う「こども家庭センター」の活用
- 外国にルーツを持つ児童生徒等に対する生活支援や相談体制の強化 など

II 一人ひとりの夢や希望が叶い、幸せを実感できる「ふく育希望モデル」の実現

II-1 こども・若者の夢や希望を応援

【人生の希望を叶える社会づくり】

- ★●自分の将来や生き方を考える機会を広く提供する「ライフデザイン教育」の推進
- ★●地域の特性を活かした体験学習や職業教育の充実
- ★●こども・若者が将来への夢や希望を見いだす活動を応援
- 自己の適正と能力に応じた職業能力開発の機会確保と就労支援
- ★●若者の恋愛気運の醸成・出会いの機会の拡充 など

III 子育ての“よろこび”が育まれ、さらに広がっていく「ふく育共感モデル」の実現

III-1 社会全体でこども・子育てを応援

【みんなで支えるこども・子育て応援社会づくり】

- ★●地域の様々な主体が参加する見守りネットワークの構築
- 民生・児童委員やアクティブシニア層、外国人県民など地域の担い手による活動支援
- ★●男性育休が当たり前となり、誰もが仕事と家庭を両立できる社会づくり
- ★●時短勤務やテレワークなど、多様な働き方を実践する社員ファースト企業の拡大
- 企業等と行政が連携し、社会全体で子育て世帯を応援する環境づくり
- 「こども・若者政策マインド」を県内に広げ、こども・若者目線での政策立案・実行を強化 など

III-2 子育てのワクワク感を増大

【家族で子育てを楽しむ風土づくり】

- ★●こどもたちの健やかな育ちを支える全天候型遊び場等の整備推進
- ★●夫婦や家族で家事・育児を楽しむ「共家事」の普及拡大
- ★○親子のふれあいや親学びを通して家庭の教育力向上を支援 など

あらゆる環境におかれたこどもや若者が取り残されないきめ細かな支援を実施し、分野を超えて互いを理解、尊重し合う社会を目指す

I-2 安心の子育て環境を確保

【子育てのサポート体制を充実】

- 様々な子育てのニーズをサポートする「ふく育さん」・「ふく育タクシー」の利用支援
- 一時預かりや子育て世帯の家事支援を行う「すみずみ子育てサポート事業」の充実
- ★○「放課後児童クラブ」の人材確保や事業運営を支援し、安心・安全な活動環境を実現
- こども食堂等と連携したアウトリーチ型の見守り体制の構築
- 待機児童ゼロを維持するための保育人材確保と教育・保育の質の向上
- 就労要件を問わず柔軟に利用できる新たな通園制度の実施
- こどもの豊かな育ちを支える保育者の仕事魅力発信 など

【当事者に確実に届く情報発信】

- 子育て支援策や母子保健等に関する情報の集約・発信アプリなど子育て支援DXの推進
- ★●施策の利用シーンなどを分かりやすく伝える当事者目線での広報展開 など

評価項目	現状(R5)※	目標(R11)
保育所等の待機児童	0人	0人
一時預かりの平均利用回数	※保育園等や放課後児童クラブ利用者を除く対象のこども一人当たり 5.2回	6.5回
障害福祉サービス等を利用している医療的ケア児数	91人	110人
夕方見守り運動協力店（企業・団体等）	1,684店舗	2,000店舗
里親委託率	22.9%	42.0%
「住んでいる地域に自分の居場所がある」と感じている若者の割合	50.8%	65.0%

※一部、R6の調査結果を含む

一人ひとりの夢や希望を応援する風土を醸成し、こどもをもつことや子育ての幸せを実感できる社会を目指す

II-2 こども・子育ての幸せ実感を実現

【「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援の実現】

- 将来の妊娠のための健康管理（プレコンセプションケア）の実施
- 日本一の不妊治療支援、市町や関係機関と連携した母子保健の充実
- ★●保育料無償化や高校・大学の授業料支援等による日本一の“ふく育”応援 など

評価項目	現状(R5)	目標(R11)
県・市町の結婚応援事業をきっかけとする婚姻件数	109件	200件
産後ケア事業を受けた人数（延べ）	1,541人日	3,100人日
将来の夢や希望（目標）を持っている児童生徒の割合	(中学校)68.9%	(中学校)80.0%

子育てを応援する福井への愛着が地域全体に浸透し、こどもをもつことや子育てのよろこびが大きく育まれ、共感し合う社会を目指す

【楽しさやよろこびが感じられる子育て観の醸成】

- こども・子育てへの前向きなイメージを醸成するキャンペーンの展開
- ★●市民主体の“ふく育”イベントをつなぐ情報発信の応援
- ★●福井県児童科学館・福井県こども家族館の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討
- ★●小・中・高校生を対象に乳幼児と触れ合う機会を創出 など

評価項目	現状(R5)※	目標(R11)
男性の育児休業取得率	31.4%	85.0%
「社員ファースト企業」宣言企業数	521社	1,500社
乳幼児ふれあい事業の参加人数	3,168人	5,500人
子育てに「楽しみや喜び」のイメージを持っている県民の割合	44.2%	60.0%

※一部、R6の調査結果を含む

施策の	事業(制度)名	事業開始年度	事業概要	担当課
「ふく育安心モデル」				
大項目 I-1 こどもの安全・安心を確保				
中項目 こども・若者主体の社会づくり				
小項目 こどもの教育・養育の現場におけるこどもの権利等に関する理解促進と意見聴取の推進				
	こどもの権利擁護環境整備事業	R6	施設入所児童に対し意見表明支援員による意見形成、意見表明支援等を実施	児童家庭課
	人権啓発フェスティバル開催事業	H12	地域住民に密着した人権啓発を実施することにより、人権尊重思想の普及啓発を図る	地域福祉課
小項目 こどもが行きたくなる学校づくりなど「誰一人取り残されず、個性が尊重される学び」の推進				
	不登校対策支援事業	H13	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置や校内サポートルームの設置等により、不登校の未然防止や早期発見・早期解決を図る	教職員課 高校教育課 義務教育課
小項目 こどもや若者に寄り添う活動に取り組む団体の応援				
	こども・子育て伴走応援事業	R7	こども・子育てに関する自主活動に取り組む団体活動を応援 ・こども目線の自主的な挑戦を応援 ・こども・若者や子育て世代への伴走活動(こども・子育てへの同じ悩みを抱える当事者団体の自主活動も含む)を応援	こども未来課
	社会的養護当事者(ケアリーバー等)団体活動支援事業	R7	当事者団体自身が行う、社会的養護経験者間のネットワーク化や情報交換、ピアサポート、意見表明等の活動を支援	児童家庭課
小項目 こどもの安全安心のための見守り活動の推進				
	子ども安心見守り推進事業	H17	各小中学校区の見守り隊に対し、必要な資機材購入の補助をすることにより、こどもの安全確保活動の充実を図るとともに、地域の人々へ「夕方見守り運動」と、企業団体にも「ながら見守り活動」を普及させることで、地域全体で、こどもを狙う犯罪が起こりにくい環境づくりを推進する。	県民安全課
中項目 一人ひとりの環境に寄り添った支援の充実				
小項目 養育に困難を抱える家庭への支援を拡充し、児童虐待防止等の取組を強化				
	家庭支援事業(子ども・子育て支援交付金)	R6	子育て訪問支援事業、児童育成支援拠点事業、親子関係形成事業の実施	児童家庭課
	妊産婦等生活援助事業	R7	家庭生活に困難を抱えて支援に繋がっていない妊婦や特定妊婦、出産後の母子等の生活支援、自立支援	児童家庭課
小項目 ヤングケアラーや不登校など不安を抱える家庭への支援の充実とこどもたちが集える居場所の確保				
	ヤングケアラー支援事業	R4	ヤングケアラー・コーディネーターの配置、居場所の提供を実施。また、ヤングケアラーが参加するサロン・ピアサポートの実施、ヤングケアラーがいる家庭等の居宅を支援員が訪問し、悩みの傾聴や家事・育児等の支援を実施	児童家庭課
	家庭支援事業(子ども・子育て支援交付金)	R6	子育て訪問支援事業、児童育成支援拠点事業、親子関係形成事業の実施	児童家庭課
小項目 生活困窮世帯やひとり親家庭児童への学習・生活支援の充実				
	ひとり親家庭等習い事支援・大学受験料等支援事業	R5	ひとり親家庭の子の習い事や大学受験料等の財政的支援、	児童家庭課
	ひとり親家庭ライフプランセミナー	R5	自立に向けたキャリアアップのための講習会やイベントの開催	児童家庭課
	生活困窮者あんしんサポート事業	R4	各種支援制度や相談窓口の周知、相談に来た人の生活を一時的に支援するため、支援物資を相談支援機関に配備	地域福祉課
小項目 親を頼ることができないこどもたちの家庭的で安定した生活環境の場の確保				
	児童入所施設措置費	S23	施設等入所児童、里親委託児童の養育のための委託費	児童家庭課
	児童入所施設措置費(入所施設以外)	R6	里親支援センター運営費、児童家庭支援センター指導委託費等	児童家庭課
	児童福祉施設等施設整備事業	H20	児童養護施設等の小規模かつ地域分散化による「できる限り良好な家庭的環境」での養育を進めるため、児童養護施設等の整備・改修費を補助	児童家庭課
小項目 入所児童の退所後を見据えた自立支援と退所後も支え合えるネットワークの構築				
	(再掲)児童入所施設措置費	S23	家庭養育優先原則の下、施設での養育を必要とするこどもの行き場がなくなることはないよう、十分な施設定員を確保するための施設運営	児童家庭課
	(再掲)児童入所施設措置費(入所施設以外)	R6	里親支援センターの設置運営、こども家庭センターの措置、指導委託にかかる経費の負担金	児童家庭課
	社会的養護自立支援拠点事業	R5	施設等退所者や虐待経験がありながらこれまで公的支援につながらなかった者への相談や居場所支援	児童家庭課

小項目 青少年の非行防止活動と有害環境対策などによる健全育成の推進			
青少年愛護センター補助事業	S43	市町が設置する青少年愛護センターの実施する、街頭補導、環境浄化、非行防止・健全育成啓発等の事業に対し助成を行い、青少年の非行防止と健全育成を図る。	県民安全課
少年警察協助力活動	-	地域ぐるみの非行防止対策を推進している少年指導委員および少年警察協助力員による各種活動(幼稚園・保育園児を対象とした犯罪被害防止の啓発、少年警察協助力員による街頭補導活動、啓発活動)	警察本部人身安全・少年課
家庭の教育力向上事業	H28	インターネットの適正利用、生活習慣、いじめの早期発見等をテーマとした家庭教育通信を発行し、家庭教育の重要性を保護者に啓発	義務教育課
小項目 思春期の保健対策の強化			
薬物乱用防止指導強化事業	H10	薬物乱用防止指導員への研修会開催	医薬食品・衛生課
地域自殺対策強化事業	H30	高校生のメンタルヘルスセミナーの開催	障がい福祉課
感染症予防対策事業	H11	感染症に関するパンフレットを学校に配布し、正しい知識の普及啓発	保健予防課
中項目 こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携			
小項目 放課後児童クラブ、放課後デイサービス事業所など家庭でも学校でもない多様な居場所づくりへの支援			
高校内居場所カフェ事業	R5	学校内に放課後等の「こども第三の居場所」となるカフェを設置	児童家庭課
医療的ケア児者等と家族のための在宅生活サポート事業	H27	医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を介護する家族の精神的・身体的負担を軽減するため、医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を受け入れる事業所に対して、補助金を交付し、さらに支援体制を充実させる。	障がい福祉課
重度化対応施設整備等補助金	R6	重度障がい児者の受入れを促進し、現場職員の負担軽減のため、医療的ケア児や強度行動障害児等を受入れる事業所に対し、支援環境の整備に要する費用を補助する。	障がい福祉課
(再掲)こども・子育て伴走応援事業	R7	こども・子育てに関する自主活動に取組む団体活動を応援 ・こども目線の自主的な挑戦を応援 ・こども・若者や子育て世代への伴走活動(こども・子育てへの同じ悩みを抱える当事者団体の自主活動も含む)を応援	こども未来課
小項目 様々な家庭環境(ひとり親家庭や多胎児、医療的ケアなどを育てる家庭)に応じた支援の充実			
(再掲)医療的ケア児者等と家族のための在宅生活サポート事業	H27	医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を介護する家族の精神的・身体的負担を軽減するため、医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を受け入れる事業所に対して、補助金を交付し、さらに支援体制を充実させる。	障がい福祉課
(再掲)重度化対応施設整備等補助金	R6	重度障がい児者の受入れを促進し、現場職員の負担軽減のため、医療的ケア児や強度行動障害児等を受入れる事業所に対し、支援環境の整備に要する費用を補助する。	障がい福祉課
「ふく育サービス」利用支援事業	R5	「ふく育サービス」(「ふく育さん」と「ふく育タクシー」の総称)の利便性を向上させ、子育て世帯への浸透を図るとともに、育児負担の大きな世帯がよりサービスを使いやすくなるよう支援	こども未来課
小項目 障がいや発達の特性に合わせた切れ目ない支援・サービスの充実			
小児療育体制確保事業	H17	・地域における障がい児支援体制の整備・強化を進めるため、こども療育センターの多職種チームが、市町や事業所、学校等を訪問し、従業者に対する療育相談・指導を実施 ・療育に携わる事業所や病院等の従業者の資質向上のため、こども療育センターが、こどもの発達特性に応じたアセスメント等に関する研修会を開催 ・地域の家族支援体制の整備を図るため、療育拠点病院が家族支援プログラムを実施する経費を支援	障がい福祉課
発達障がい児(者)支援センター運営事業	H18	発達障がい児(者)および家族等に対する相談、就労支援を実施	障がい福祉課
こども療育センター施設管理運営費	-	医療、福祉および教育の多面的アプローチによる心身障がい児の早期発見と、療育相談、指導訓練により、心身障がい児の社会参加を支援	障がい福祉課
保育カウンセラー配置事業	H22	市町に保育カウンセラーを配置し、保育所等への巡回相談等を実施	児童家庭課
小項目 幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続			
幼児教育支援事業	H25	幼児教育相談員配置事業 幼児教育指導力向上事業 ・幼児教育のリーダーの養成 ・幼小接続カリキュラムに基づく教育の推進(幼小接続講座年4回実施、全ての園、全ての小学校、市町担当課と架け橋カリキュラム研修会を実施)	義務教育課

小項目 小児医療の体制充実および慢性疾病・難病を抱えるこども・若者への支援				
#8000子ども医療電話相談事業	H17	夜間・休日のこどもの急病に対して看護師による電話相談の実施	地域医療課	
小児慢性特定疾病医療費助成事業	S43	小児慢性特定疾病にかかっている児童の医療費の負担軽減を図るため、医療費の自己負担分の一部を助成	保健予防課	
小児慢性特定疾病児童等自立支援事業	H27	小児慢性特定疾病児童自立支援相談所の設置、自立支援相談員の配置	保健予防課	
こどもホスピス支援モデル事業	R7	県内のLTCにあるこどもの課題や地域型こどもホスピスとの支援連携の方策について、協議会等を開催し検討。県内のLTCにあるこどもの人数と、その家族を含めた実態や支援ニーズ等の調査を実施。LTCにあるこどもの遊びの支援、学びの支援、こども同士の交流、生活全般の支援、およびきょうだい児支援、グリーフ・ケアなどの家族支援等のプログラムを実施する民間団体等(地域型こどもホスピス)に対して支援を実施。	保健予防課	
小項目 児童相談所、市町、施設等こどもに関わる支援者の研修・交流拠点の設置				
児童相談対応職員資質向上研修事業	H17	地域の児童虐待対応の中核を担う市町職員や児童相談所職員等を対象とした体系的な研修を実施	児童家庭課	
こども家庭ソーシャルワーカー取得促進事業	R6	市町や施設等のこども家庭ソーシャルワーカー資格の取得を支援	児童家庭課	
小項目 介護、障がい、子育て、生活困窮などの支援機関が連携した協働支援体制の構築				
重層的体制支援整備事業	R3	市町において、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築	地域福祉課	
小項目 母子保健・児童福祉の一体的相談支援を担う「こども家庭センター」の活用				
子ども・子育て支援交付金事業(利用者支援事業)	-	全ての妊産婦、子育て家庭、こどもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関(こども家庭センター)設置を支援し、妊娠期から出産・子育てまで、一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型相談支援を実施	こども未来課	
小項目 外国にルーツを持つ児童生徒等に対する生活支援や相談体制の強化				
外国人総合相談体制強化事業	R7	外国人に寄り添ったワンストップ相談体制の強化、プッシュ型外国人支援の仕組み構築	インバウンド交流課	
外国人児童生徒等支援事業	R1	日本語指導が必要な外国人児童・生徒等に対する支援員の配置を支援	義務教育課	
大項目 I-2 安心の子育て環境を確保				
中項目 子育てのサポート体制を充実				
小項目 様々な家庭をきめ細やかに支える子育てサービスの充実(ふく育さん、ふく育タクシー、すみずみ子育てサポート)				
(再掲)「ふく育サービス」利用支援事業	R5	「ふく育サービス」(「ふく育さん」と「ふく育タクシー」の総称)の利便性を向上させ、子育て世帯への浸透を図るとともに、育児負担の大きな世帯がよりサービスを使いやすくなるよう支援	こども未来課	
すみずみ子育てサポート事業(通常分、妊婦、生後1カ月未満の第1・2子)	H16	冠婚葬祭時などの一時的な子育て支援として、一時預かり・保育所送迎・家事支援を実施	こども未来課	
小項目 「放課後児童クラブ」の人材確保や事業運営を支援し、安心・安全な活動環境を実現				
放課後子どもクラブ応援事業	H19	放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の運営に対する支援	こども未来課	
放課後児童クラブ持続可能な職場づくり対策事業	R5	放課後児童クラブの安定的な人材確保のため、就職説明会を実施し魅力をPRするとともに、施設職員のため相談員を派遣	こども未来課	
小項目 こども食堂等と連携したアウトリーチ型の見守り体制の構築				
支援対象児童等見守り強化事業	R7	こども食堂や市町との連携を図るため、研修会・交流会を開催	児童家庭課	
小項目 待機児童ゼロを維持するための保育人材確保と教育・保育の質の向上				
保育等の職場づくり総合対策支援事業	R5	魅力のある職場づくりを推進することで、保育士等が生涯働き続けることができる環境を整備し、安定的な保育人材の確保を図る(住宅手当、転入奨励金、子育て世帯支援手当、保育補助者等の雇上げ、メンタルケア、ICT)。	児童家庭課	
保育士試験対策事業	R7	保育士試験を受験する者が保育士試験に合格するために必要な知識とスキルを効果的に習得できるよう対策講座を実施し、合格者を増やし、県内の保育士の増加を図る。	児童家庭課	
指定保育士養成施設における志願者応援事業	R6	新たな保育者を輩出し、将来的な人材確保を図るため、指定保育士養成施設が行う保育者をめざす学生増に資する取組みに対し支援を行う。	児童家庭課	
小項目 就労要件を問わず柔軟に利用できる新たな通園制度等の実施				
乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)	R7	全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらず形での支援を強化するため、現行の幼児教育・保育給付に加え、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付	児童家庭課	
小項目 こどもの豊かな育ちを支える保育者の仕事魅力発信				
保育士・保育の現場の魅力発信事業	R5	県が、小～高校生、その保護者および潜在保育士に対して、保育のネガティブイメージの払拭や魅力の発信を行い、保育者をめざす者の増加を図る	児童家庭課	

中項目 当事者に確実に届く情報発信			
小項目 子育て支援策や母子保健等に関する情報の集約・発信アプリなど子育て支援DXの推進			
「ふく育」応援事業	R3	子育て支援サイト「ふく育」にて県・市町の垣根を超えた子育てに役立つ情報を一元的に情報発信する	こども未来課
小項目 施策の利用シーンなどを分かりやすく伝える当事者目線での広報展開			
「ふく育」ブランド定着事業	R4	県内の子育て世代を対象に、本県の子育て支援策を周知するとともに、これから結婚、出産、子育てを控える若者世代が、こどもを持つことや子育てに対して抱くポジティブなイメージを醸成するため、テレビCMやSNS広告等を実施するほか、子育て応援イベントを実施	こども未来課
「ふく育希望モデル」			
大項目 II-1 こども・若者の夢や希望を応援			
中項目 人生の希望を叶える社会づくり			
小項目 自分の将来や生き方を考える機会を広く提供する「ライフデザイン教育」の推進			
ふるさと教育推進事業	R3	児童生徒が自らの地域を探究し、地域の魅力を発信するCMを作成するための活動経費を支援するとともに、県内で活躍する社会人によるキャリア講演会を小中学校で実施	義務教育課
ふくい未来人材育成事業	-	県立高校において、福井で活躍する有識者による講演を実施し、福井の現状と地域の実情を学び、理解を深める機会を提供する「地域デザイン講座」などを実施	高校教育課
小項目 地域の特性を活かした体験学習や職業教育の充実			
ふくいの産業教育推進事業	R3	職業系高校における地域産業・企業を学ぶ県独自の共通科目「ふくいの産業」の実施	高校教育課
ふくいの食育推進事業	R7	栄養教諭の資質向上のための研修会や小中学校における地場産食材を活用した「地場産プラスワン給食」による食育を実施することにより、児童生徒の健康課題の解決を図るとともに、ふるさとの歴史や文化等を学ぶ「食育」を推進	保健体育課
(再掲)ふるさと教育推進事業	R3	児童生徒が自らの地域を探究し、地域の魅力を発信するCMを作成するための活動経費を支援するとともに、県内で活躍する社会人によるキャリア講演会を小中学校で実施	義務教育課
小項目 こども・若者が将来への夢や希望を見いだす活動を応援			
(再掲)こども・子育て伴走応援事業	R7	こども・子育てに関する自主活動に取り組む団体活動を応援 ・こども目線の自主的な挑戦を応援 ・こども・若者や子育て世代への伴走活動(こども・子育てへの同じ悩みを抱える当事者団体の自主活動も含む)を応援	こども未来課
小項目 自己の適正と能力に応じた職業能力開発の機会確保と就労支援			
人材確保支援センター運営事業	H16	未就職者等を対象とした適職診断、企業見学、模擬面接を実施	労働政策課
小項目 若者の恋愛機運の醸成・出会いの機会の拡充			
若者の恋愛活動応援事業	R7	交際や結婚を希望する若者の活動を後押しするため、若者とその親に向けた恋愛・結婚に関する情報発信や、マッチングアプリ運営会社と連携した恋愛機運の醸成や出会いの機会の提供、若者交流イベントの開催支援を実施	県民協働課
オールふくい連携婚活応援事業	R2	県と市町で組織するふくい結婚応援協議会において、福井での結婚を希望する方に、「ふく恋」AIマッチングシステムによる出会いの機会の提供等を実施	県民協働課
大項目 II-2 こども・子育ての幸せ実感を実現			
中項目 「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援の実現			
小項目 将来の妊娠のための健康管理(プレコンセプションケア)等、こどもを持つことを望む夫婦やカップルの支援			
プレコンセプションケア推進事業	R7	プレ妊活健診、助産師による健康相談窓口の開設	こども未来課
不妊治療費助成等事業	H16	特定不妊治療や男性不妊治療の費用を助成および夫婦そろっての不妊検査と一般不妊治療の費用を助成、不育症検査に係る費用を助成	こども未来課
感染症予防対策事業	H11	感染症に関するパンフレットを学校に配布し、正しい知識の普及啓発	保健予防課
小項目 不妊治療支援の継続と市町や関係機関と連携した母子保健の充実			
(再掲)不妊治療費助成等事業	H16	特定不妊治療や男性不妊治療の費用を助成および夫婦そろっての不妊検査と一般不妊治療の費用を助成、不育症検査に係る費用を助成	こども未来課
子ども・子育て支援交付金事業(産後ケア事業)	R7	退院直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行い、安心・安全な子育て環境を整えるための経費を補助	こども未来課
小項目 保育料無償化、高校授業料無償化、大学の授業料支援等による「ふく育」応援			
すくすく保育支援事業	-	0~2歳の第2子以降の保育料および3~5歳児の第3子以降の副食費を無償化	児童家庭課
すくすく保育支援事業(ふく育応援プロジェクト)	H8	3歳未満児の第2子の保育料について、全員無償化を実施	児童家庭課
すみずみ子育てサポート事業(ふく育応援プロジェクト)	H16	第2子以降のNPO法人等が実施する一時預かりサービスに係る利用料を無償化	こども未来課
こども医療費助成事業	S48	中学3年生までのすべてのこどもを対象に窓口無料化を実施	こども未来課

「ふく育共感モデル」

大項目 Ⅲ-1 社会全体で子ども・子育て応援社会づくり

中項目 みんなで支える子ども・子育て応援社会づくり

小項目 地域の様々な主体が参加する見守りネットワークの構築

(再掲)支援対象児童等見守り強化事業	R7	子ども食堂や市町との連携を図るため、研修会・交流会を開催	児童家庭課
(再掲)子ども安心見守り推進事業	H17	各小中学校区の見守り隊に対し、必要な資機材購入の補助をすることにより、子どもの安全確保活動の充実を図る。	県民安全課
(再掲)子ども安心見守り推進事業	H29	地域の人々へ「夕方見守り運動」と、企業団体にも「ながら見守り活動」を普及させることで、地域全体で、子どもを狙う犯罪が起こりにくい環境づくりを推進する。	県民安全課

小項目 民生委員・児童委員やアクティブシニア層、外国人県民など地域の担い手による活動支援

身近な地域の支え合い推進モデル事業	R7	地域づくりの担い手同士がつながるプラットフォームの構築や地域コミュニティの場を形成する居場所づくりを支援し分野や制度を超えた地域づくりを推進	地域福祉課
外国人も暮らしやすい環境づくり事業	H31	ふくい外国人コミュニティリーダーの認定・専門化など	インバウンド交流課
シニアチャレンジ応援事業	H31	高齢者を含めた多世代(子どもや地域住民)を交えた活動を実施することにより、高齢者団体の地域内活動の多様化を図るもの	長寿福祉課

小項目 子育て世帯への相談機能の充実

子育てマイスター地域活動推進事業	H17	保育士・看護師などの資格を持つ「子育てマイスター」を募集・登録し、子育てへの助言や相談等に対応	子ども未来課
------------------	-----	---	--------

小項目 時短勤務や男性育休など多様な働き方の拡大を通じた、誰もが仕事と家庭を両立できる社会づくり

男性育休促進企業奨励金事業	R5	男性の育児休業取得や長期間の育児短時間勤務の制度化、不妊治療休暇制度を整備するなど従業員を支援する企業に対して奨励金を支給、および社会保険労務士による企業への巡回支援を実施	子ども未来課
「社員ファースト企業」推進事業	R1	働き方改革に向けた宣言を行った企業に対する取組みの支援や、労働環境の優良な企業を表彰し情報発信	労働政策課
短時間正社員等の多様な働き方導入促進事業	R7	性別にかかわらず公正な賃金体系の導入を目指す企業・団体に対し、体制整備やコンセンサスづくりを専門家チームが直接支援。短時間正規増や男女間賃金格差等の是正を目指す。関係セミナー等も行い意識改革を図る。	労働政策課

小項目 女性のキャリアアップと就業を支援

ふくい女性活躍支援センター運営事業	H19	女性の就業支援のため、キャリア相談員による電話・面接相談対応、再就職支援セミナーや求人企業との個別面接会を開催	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(「ふくい女性活躍推進企業」)	H27	女性活躍に積極的に取り組む企業を「ふくい女性活躍推進企業」として認証	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(表彰)	R2	他企業の模範となるふくい女性活躍推進企業等を表彰	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(「女性登用アワード」)	R6	女性登用を積極的に進める企業を顕彰。特に優れた実績の企業には、奨励金を支給	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(経営者向け講演会・勉強会による意識改革)	R3	企業における女性活躍の機運向上・意識改革を図るため、県外の女性活躍先進企業による講演会を開催	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(女性活躍推進コンシェルジュ)	R4	女性登用が進んでいない業態を中心に、社会保険労務士等を企業に派遣し、経営メリットをわかりやすく提示するとともに、女性育成・登用に向けたきめ細やかな支援を実施	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(社外メンター)	R5	女性リーダー育成のため、女性管理職のロールモデルや働く女性の相談相手となる社外メンターの県内普及を促進	女性活躍課
企業の女性活躍推進事業(インセンティブ付与)	R5	女性管理職登用を進める企業に対し、企業PR動画を作成し県内大学等で放映を行い、企業プロモーションを支援	女性活躍課
女性のチャレンジ応援事業	R6	様々な分野で活躍する女性をロールモデルとして発信	女性活躍課

小項目 企業等と行政が連携し、社会全体で子育て世帯を応援する環境づくり

(再掲)「ふく育」応援事業	R3	子育て支援サイト「ふく育」にて県・市町の垣根を超えた子育てに役立つ情報を一元的に情報発信する	子ども未来課
(再掲)「ふく育」ブランド定着事業	R4	県内の子育て世代を対象に、親子で楽しみながら役立つ情報が得られるイベントを開催するとともに、市民主題の活動がつながり、活性化されるよう団体の交流会を実施	子ども未来課

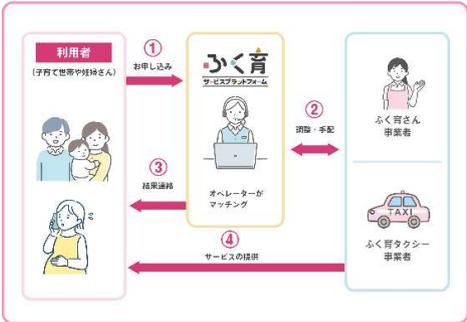
小項目 「子ども・若者政策マインド」を県内に広げ、子ども・若者目線での政策立案・実行を強化

「子ども・若者政策マインド」の策定	R7	子ども・若者目線の政策立案の進め方や、意見聴取の心がまえ・事例など紹介する「子ども・若者政策マインド」のPR版を製作	子ども未来課
-------------------	----	--	--------

大項目 Ⅲ-2 子育てのワクワク感を増大			
中項目 家族で子育てを楽しむ風土づくり			
小項目 こどもたちの健やかな育ちを支える全天候型遊び場等の整備推進			
こどもの遊び場整備事業	R3	市町による全天候型遊び場の整備費用を補助	こども未来課
総合グリーンセンター管理運営費	S55	緑化植物園およびグリーンパークの利用者が安全・安心に園内を楽しむよう、施設の維持管理や老朽化した設備・遊具の修繕などを行う。	森づくり課
総合グリーンセンター魅力向上プロジェクト	R9	開園50周年(R12)に向けて木育、幼児教育といった幅広い分野の有識者と共にグリーンセンターのあり方について検討する。(既存の建物を木育施設に改修することや、全天候型遊具を設置するなど想定)	森づくり課
子どもの読書活動推進事業 (推薦図書を選定および小冊子の作成)	R2	家庭・地域・学校を通じたこどもの読書活動を推進し、こどもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境を整備	生涯学習・文化財課
小項目 夫婦や家族で家事・育児を楽しむ「共家事」の普及拡大			
共家事・ラク家事促進によるゆとり時間創出事業	R7	共家事や家事の外部化・省力化を推進するため、PR動画作成や家事タイプ診断WEBページの作成、時短家事アイデアコンテストや家事代行モニターキャンペーンを実施	女性活躍課
小項目 親子のふれあいや親学びを通して家庭の教育力向上を支援			
道徳教育総合推進事業	H23	親子で学ぶ道徳講座を実施	義務教育課
(再掲)家庭の教育力向上事業	H28	インターネットの適正利用、生活習慣、いじめの早期発見等をテーマとした家庭教育通信を発行し、家庭教育の重要性を保護者に啓発	義務教育課
中項目 楽しみやよろこびが感じられる子育て観の醸成			
小項目 こども・子育てへの前向きなイメージを醸成するキャンペーンの展開			
(再掲)「ふく育」ブランド定着事業	R4	県内の子育て世代を対象に、本県の子育て支援策を周知するとともに、これから結婚、出産、子育てを控える若者世代が、こどもを持つことや子育てに対して抱くポジティブなイメージを醸成するため、テレビCMやSNS広告等を実施するほか、子育て応援イベントを実施	こども未来課
小項目 市民主体の“ふく育”イベントをつなぐ情報発信の応援			
(再掲)「ふく育」ブランド定着事業	R4	県内の子育て世代を対象に、親子で楽しみながら役立ち情報が得られるイベントを開催するとともに、市民主題の活動がつながり、活性化されるよう団体の交流会を実施	こども未来課
(再掲)「ふく育」応援事業	R3	子育て支援サイト「ふく育」にて県・市町の垣根を超えた子育てに役立つ情報を一元的に情報発信する	こども未来課
小項目 福井県児童科学館等の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討			
児童館整備事業	S39	児童の健全育成を図るため、児童館・児童センターを活用した遊びの活動等の充実を図る	こども未来課
児童科学館・こども家族館運営事業	H11	福井県児童科学館・こども家族館の運営(大規模修繕を含む)、および今後の在り方を検討	こども未来課
大阪・関西万博における福井県ゾーン展示物の二次活用事業	R7	万博閉会後に、福井県ゾーンの展示物をこども家族館に移設することにより、観光誘客に活用するとともに、世界に向けて発信した本県の魅力を県民が気軽に体感できる機会を創出 (R7.9補正 8, 550千円)	誘客推進課
小項目 小・中・高校生を対象に乳幼児と触れ合う機会を創出			
市町事業※地域少子化対策重点推進交付金	-	乳幼児と直接ふれあう体験をすることにより、命の大切さや、乳幼児との関わり方等について学び、結婚・子育てに対する理解を深める	義務教育課
(再掲)保育士・保育の現場の魅力発信事業(小・中・高校生への乳幼児と触れ合う機会の提供)	R7	将来の保育人材確保のため、小・中・高校生に保育所等で乳幼児と触れ合う体験を提供する保育所等に対し、報奨金を支給する	児童家庭課

I ふく育安心モデル		こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携	
(7) 高校内居場所カフェ事業		予算額 9,247 千円	児童家庭課
[事業目的]	家庭や学校関係者以外の信頼できる大人や友達と安心して過ごすことができる「第3の居場所」を作り出すことでニーズを発見し、個別支援や必要な社会資源に早期につなげる		
[事業実績]	<p>【実施内容】 居場所に出向くことに抵抗感のない学校という場を活用し、高校生を対象とした居場所をつくり、身近な場所で支援が必要となるこどもへアプローチできるよう、居場所づくりを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食時等におにぎりやスープ等の軽食提供 ・自由に過ごせる場の提供 ・困窮家庭への食料品や生活用品の提供 ・関係機関との連携体制構築のための取組み ・支援活動従事（予定）者等に対する研修の実施 <p>(7年度実施校数 7校)</p>		
[事業評価]	実施校数は7校と増加しており、福井県こども・子育て応援計画の個別評価（KPI）で掲げる「居場所」関係の評価向上に寄与		

I ふく育安心モデル		こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携																	
(8) 医療的ケア児者等と家族のための在宅生活サポート事業		予算額 40,250 千円	障がい福祉課																
[事業目的]	医療的ケア児者等が安心して在宅での生活を続けられるよう、介護を行う家族の精神的身体的負担の軽減等を図る。																		
[事業実績]	<p>【実施内容】 医療的ケアが必要な重症心身障がい児者等を介護する家族の精神的・身体的負担を軽減するため、対象者を受け入れる事業所に対して、補助金を交付し、さらに支援体制を充実させる。</p> <p>〈対象者〉 医療的ケアが必要な重症心身障がい児等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補助対象</th> <th>障がい児通所事業所</th> <th>短期入所事業所</th> <th>(参考) 生活介護事業所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入</td> <td>4時間以上 6,900円/人 4時間未満 4,830円/人</td> <td>13,800円/人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>送迎</td> <td colspan="3">820円/片道</td> </tr> <tr> <td>入浴介助</td> <td>医ケア重心 1,720円/回</td> <td>医ケア重心 1,720円/回、区分6重心者</td> <td>1,200円/回</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈R7 補助実績見込み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児通所事業所 15事業所 ・短期入所事業所 3事業所 (・生活介護事業所 17事業所) 			補助対象	障がい児通所事業所	短期入所事業所	(参考) 生活介護事業所	受入	4時間以上 6,900円/人 4時間未満 4,830円/人	13,800円/人	-	送迎	820円/片道			入浴介助	医ケア重心 1,720円/回	医ケア重心 1,720円/回、区分6重心者	1,200円/回
補助対象	障がい児通所事業所	短期入所事業所	(参考) 生活介護事業所																
受入	4時間以上 6,900円/人 4時間未満 4,830円/人	13,800円/人	-																
送迎	820円/片道																		
入浴介助	医ケア重心 1,720円/回	医ケア重心 1,720円/回、区分6重心者	1,200円/回																
[事業評価]	医療的ケア児等が利用できる事業所を増やすための事業であり、福井県こども・子育て応援計画の個別評価（KPI）で掲げる「障害福祉サービス等を利用している医療的ケア児数」の評価向上に寄与																		

I ふく育安心モデル		こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携	
(9) 「ふく育サービス」利用支援事業		予算額 76,687 千円	こども未来課
[事業目的]	「ふく育サービス」(「ふく育さん」と「ふく育タクシー」の総称)の利便性を向上させ、子育て世帯への浸透を図るとともに、育児負担の大きな世帯がよりサービスを使いやすくなるよう支援		
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふく育さん」「ふく育タクシー」を簡単・気軽に利用できるよう、スマートフォンやパソコンなどからワンストップで申し込みできるオンライン窓口「ふく育サービスプラットフォーム」を設置。申込内容に応じて専属のオペレーターがサービス事業者を調整・手配 ・「ふく育さん」を誰もが安心して利用できるよう、法人等を対象とした専用申込窓口を開設 ・ひとり親家庭や多胎児・医療的ケア児等を育てる家庭など育児負担が大きい世帯を対象に、「ふく育さん」や「ふく育タクシー」を利用しやすくなるよう48,000円分の「ふく育サービス」共通利用券(無料クーポン)を配付  		
[事業評価]	当事業は子育ての負担軽減を目的としているため、福井県こども・子育て応援計画の個別評価(KPI)で掲げる「子育てに「楽しみや喜び」のイメージを持っている県民の割合」の評価向上に寄与		

I ふく育安心モデル		こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携	
(10) 外国人児童生徒等支援事業		予算額 22,793 千円	義務教育課
[事業目的]	日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を充実させ、外国人児童生徒が自立できる力を育成するなど、共生社会の実現に向けた外国人児童生徒等の教育の充実を図る		
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語支援員の配置を補助 <ul style="list-style-type: none"> ・市町からの申請を踏まえて、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等在籍校に対し、県基準に基づいて支援員配置を補助 (2) 翻訳機の整備を補助 <ul style="list-style-type: none"> ・市町からの申請を踏まえて、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等在籍校に対し、県基準に基づいて多言語翻訳機整備を補助 (3) 日本語指導アドバイザーによる学校訪問、外国人児童生徒等教育連絡協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・支援を希望する外国人児童生徒等の在籍する学校に対して、日本語指導アドバイザーによる相談支援を実施 ・県、市町、学校関係者等による外国人児童生徒等教育連絡協議会を開催し、効果的な指導方法の周知や情報共有を実施 		
[事業評価]	市町からの申請を踏まえて2市に支援員の配置、多言語翻訳機の整備を補助。また外国人児童生徒等教育連絡協議会を3回開催し、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等に対する効果的な指導方法の周知や成果報告、情報共有等を実施。外国人児童生徒等の教育・支援体制の充実に寄与。		

I ふく育安心モデル 子育てのサポート体制を充実	
(11) 保育等の職場づくり総合対策事業 予算額 352,704 千円 児童家庭課	
[事業目的]	現役の保育士等や将来に保育士等を目指す者、社会的養護従事者を目指す者や現役職員にとって、魅力のある職場づくりを推進することで、保育士等や社会的養護従事者が生涯働き続けることができる環境を整備し、安定的な保育人材の確保を図る。
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <p>①住宅手当（7年度：114人） 採用から7年目までの保育士等や社会的養護従事者を対象に、住宅を借り上げている場合の住宅手当相当分の補助を行う。</p> <p>②子育て世帯支援手当（7年度：79施設） 小学校3年生までの子を持つ保育士等や社会的養護従事者をフォローする体制を整備する場合、奨励金を給付する。</p> <p>③保育補助者等配置 保育士等の業務を補助する「保育補助者」、保育周辺業務を行う「保育支援者」を配置した場合の経費を支援する。</p> <p>④転入奨励（7年度：8人） 新卒等で県内の私立保育所等や児童入所施設に正規職員として就職した県外居住者（UIターン）に対し、移住支援金を支給する。</p> <p>⑤保育士等のメンタルケア（7年度：40施設） 保育所等が精神科医師や臨床心理士を招聘し、個々の保育士等の相談対応や勤務環境づくりの助言をもらう取組みに対する支援を実施する。</p> <p>⑥ICT等活用推進報奨金（7年度：65施設） 保育者の業務負担軽減を図るため、保育の周辺業務や補助業務（保育に関する計画・記録や保護者との連絡、こどもの登降園管理等の業務）に係るICT等を活用した業務システムの活用を推進している保育所等に対し、報奨金を支給する。</p>
[事業評価]	複数の私立保育園等に聞き取りを実施したところ、「離職の防止に繋がっている」、「園全体として働きやすい職場環境が整備されている」という声があり、保育人材の確保に寄与している。

I ふく育安心モデル 子育てのサポート体制を充実	
(12) 指定保育士養成施設における志願者応援事業 予算額 25,000 千円 児童家庭課	
[事業目的]	指定保育士養成施設の入学者が近年大幅に減少している。新たな保育者を輩出し、将来的な人材確保を図るため、指定保育士養成施設が行う保育者を目指す学生増に資する取組みに対し、支援を行う。
[事業実績]	<p>(1) 保育者を目指す学生増に資する取組み</p> <p>① 成績上位者に対する授業料減免制度 保育者を目指し意欲的に学ぶ成績優秀な学生に対して授業料を免除 (短大2年間、大学4年間) (対象者) 毎年度入学者の上位30% (7年度実績) 仁愛大学 : 全額減免対象者4名、半額免除対象者9名 仁愛女子短期大学 : 全額減免対象者7名、半額免除対象者13名</p> <p>② 自宅外学生への家賃補助 6カ月通学定期50,000円以上となる地域の学生に対して家賃支援 ※最大40千円</p> <p>③ 制度周知のための広報、保育の仕事の魅力発信に資する事業</p> <p>(2) 質の高い保育者養成のための取組み</p> <p>④ 「子どもスペシャリスト」取得報奨金 対象：大学4年生 保育士、幼稚園教諭・小学校教諭の3種類の免許を取得し、県内で保育者として就職する学生を対象に報奨金(100千円)を支給</p>
[事業評価]	保育者を目指す学生増に資する取組みを支援する事業実施した結果、7年度の入学者数は前年比13人の増となったが、定員充足率は70%であるため、引き続き、高校生へ周知していく。

I ふく育安心モデル 子育てのサポート体制を充実		
(13) 保育士・保育の現場の魅力発信事業		予算額 4,782 千円 児童家庭課
[事業目的]	保育士等を目指す方や保育士等に復帰しようとする者の増を図るため、指定保育士養成施設と連携し、保育士・保育の現場についての魅力の発信を行う。	
[事業実績]	<p>(1) 保育士等の仕事の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生や潜在保育士をターゲットとした保育士等の魅力を分かりやすく示した PR 媒体を作成 ・保育士等を目指す者を対象とした LP(※1)(ふく保育開設)を運営。 ・閲覧者獲得のため、ターゲット別(※2)にチラシやインスタ等による広告 PR 活動を実施。 <p>(※1) LP の内容 (先進的な取組を行う園の紹介、先輩保育者の声、養成校の紹介、県の施策等)</p> <p>(※2) 中・高校生およびその保護者→電子媒体のチラシ(学校経由)、学生・潜在保育者等→WEB 広告</p> <p>(2) 小中高生への乳幼児と触れ合う機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の保育人材確保のため、小・中・高校生に保育所等で乳幼児と触れ合う体験を提供する保育所等に対し、補助を行う。(中学校の職場体験、家庭科授業の保育体験は除く) (7年度 22 施設実施) 	  
[事業評価]	保育士等の魅力の発信や小・中・高校生への乳幼児と触れ合う機会の提供を実施することによって、保育士等を目指す学生等の増加が期待できる。	

II ふく育希望モデル 人生の希望を叶える社会づくり		
(1) 若者の恋愛活動応援事業		予算額 24,243 千円 県民協働課
[事業目的]	若者に寄り添った啓発やニーズに合わせた出会いの機会を創出し、若者自らが早期から出会いや結婚に向けて行動できる環境づくりを実施	
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <p>(1) 恋愛や結婚を希望する若者に向けた恋愛・結婚に関する啓発 「ノックノックふくい恋愛診断の扉」サイト (7年9月開設) [実績] アクティブユーザー数 20,463 (R7.9.15~R7.12.26)</p> <p>(2) 独身の子をもつ親世代に向けた恋愛・結婚に関する啓発 「ふくい親ごころサポート」サイト (6年12月開設) [実績] アクティブユーザー数 25,576 (R6.12.27~R7.12.26)</p> <p>(3) マッチングアプリ運営会社との連携による恋愛気運醸成 地域鉄道3社での車内中吊り広告やポスターの掲出 [実施期間] 11月~12月、2月~3月</p> <p>(4) 「はぴ縁コネクター (地域おこし協力隊)」による出会いの機会の創出 恋愛応援ブースを設置し109人の若者と対話、若者の恋愛気運を醸成 イベント等119人と繋がりづくり (R7.9.1就任~12.16) [実績] イベントと協働したイベント参加者数 94人</p>	 
[事業評価]	開設から3か月で2万人のアクセスを達成した若者向け啓発サイトでは、恋愛診断で恋愛への関心を高め、恋愛したい若者の気かきに応えるコンテンツを通して恋愛活動への後押しを実施。その他、鉄道広告やはぴ縁コネクター等の活動を通じ、若者の恋愛気運の醸成や出会いの機会提供に寄与した。	

Ⅱ ふく育希望モデル		「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援の実現	
(2) プレコンセプションケア推進事業		予算額 11,763千円	こども未来課
[事業目的]	男女を問わず若年世代が、性や妊娠に関する正しい知識を得たり、気軽に相談できる場をつくることによって、将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うことを推進するとともに、将来妊娠・出産を希望する住民の理想のライフプランやウェルビーイングの実現を目指す。		
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 助産師による健康相談 妊娠・出産、月経不順、不妊・不育症、プレコンセプションケア等について、電話やメール、面接で相談できる窓口を設置 相談件数：55件（7年12月末時点） ふくいプレ妊活健診 県内に在住する18～39歳の男女を対象に、プレコンセプションケアに関する動画を視聴後、血液検査や感染症検査、超音波検査等の2～3万円の検査を無料で受けられるよう支援 令和7年度申込数：定員100名に到達 		
[事業評価]	<p>プレ妊活健診申込時のアンケートによると、動画で学んだことを今後実践しようと思ったかという項目について、77.5%の人が「思った」、21.6%の人が「すでに実践している」と回答しており、本事業が妊娠を意識する前から自身の健康に向き合うきっかけとなっている。</p>		



Ⅲ ふく育共感モデル		みんなで支えるこども・子育て応援社会づくり	
(1) 男性育休促進企業奨励金事業		予算額 185,288千円	こども未来課
[事業目的]	企業への支援を通じ、男性の育児休業取得率の向上および取得期間の長期化を促進し、男性の家事育児参加時間を増やすことで、子育てにかかる負担を軽減する。		
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <p>男性従業員が連続5日以上または通算15日以上育児休業を取得した県内企業に対し、実施状況および取得日数に応じて、1社あたり最大6,000千円の奨励金を支給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 奨励金申請件数：239件（R7.11末現在）（参考）6年度246件、5年度23件 <p>【主な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6年度は男性育休取得率44.9%と前年比+13.5%の増加 男性育休取得のさらなる促進を図るため、企業・個人向けの広報を強化。 特に、体験談や赤ちゃんのお世話を学べるVRツールを制作し育休の不安解消を図った。 <p>・企業向けチラシ ・個人向けチラシ ・VRチラシ</p>		
[事業評価]	<p>奨励金の申請件数は昨年度の同月と比べ、約1.5倍。制度の活用を契機として、県内企業における男性育休取得の機運の着実な醸成および取得者の増加に寄与</p>		



Ⅲ ふく育共感モデル		みんなで支えるこども・子育て応援社会づくり	
(2) 「社員ファースト企業」推進事業		予算額 6,020 千円	労働政策課
[事業目的]	働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を支援する「社員ファースト企業」制度により、従業員が持続的に幸せを実感できる働き方を推進し、県内企業の生産性向上や離職率低下、正規雇用者増などを促進		
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <p>テレワークやフレックス制度など、多様な働き方を実践する社員ファースト企業の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境づくりに向けた働き方改革の内容や目標を、経営者と社員の両者により宣言を行った企業を「社員ファースト企業」宣言企業として登録 宣言企業数 1,093 社 (7年11月末現在) 宣言企業に対し、宣言内容の実現に向けた働き方改革の取り組みにかかる費用を補助 (最大15万円) 交付決定数 15件 (7年11月末現在) 宣言企業から優秀な取組内容を募集し、働き方改革における4つの観点(「労働環境改善」「ダイバーシティの推進」「リカレント・リスキリングの推進」「女性活躍の推進」)において、特に優れた企業を「社員ファーストアワード」により表彰 「社員ファースト企業」のポータルサイトを開設し、制度の周知・宣言企業の認知度向上を図るとともに、社員ファーストアワード受賞企業の優れた取組を広く発信 		
[事業評価]	表彰実施やポータルサイトにおける好事例の発信等により、福井県こども・子育て応援計画の個別評価(KPI)で掲げる「社員ファースト宣言」企業数の増加に寄与		



Ⅲ ふく育共感モデル		みんなで支えるこども・子育て応援社会づくり	
(3) 短時間正社員等の多様な働き方導入促進事業		予算額 6,334 千円	労働政策課
[事業目的]	県内企業に対し、セミナーや専門家による社内体制整備等の伴走支援を実施することにより、職務内容や職責等に応じた公正な賃金制度・人事制度のもと、短時間正社員等の多様な働き方導入を促進		
[事業実績]	<p>【セミナー】</p> <p>開催日：令和7年8月5日(火) 開催場所：中小企業産業大学校 参加者数：71名</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>開催日：令和7年11月4日(火) 開催場所：中小企業産業大学校 参加者数：8社</p> <p>【伴走支援】</p> <p>県内企業8社をモデル企業とし、専門家による伴走支援を開始。今後2年程度で、企業の現状分析、賃金制度・人事制度の見直し、多様な正社員制度の導入を実施予定。実施状況や成果については、取組事例集を作成し県内企業に周知</p>		
[事業評価]	<p>○ 短時間正社員制度など多様な正社員制度の選択肢を用意することで、育児・介護等の家庭事情がある方でも、ライフスタイルに合わせて安定した就労が可能</p> <p>○ こうした制度の導入には、通常の正社員との不公平感がない賃金制度・人事制度の整備が必要</p> <p>社会保険労務士による伴走支援 県内企業8社をモデル企業として選定し、短時間正社員制度などの多様な正社員制度の導入を社会保険労務士が伴走支援(令和7~9年度3年間)</p> <p>1年目(R7年度) 2年目(R8年度) 3年目(R9年度)</p> <p>1 支援先企業の課題把握 職務分析・職務評価やヒアリングにより、賃金体系や人事制度の課題を把握</p> <p>2 多様な働き方の導入 賃金体系や人事制度の見直し、組織内の合意形成等に関する支援</p> <p>3 進捗状況のフォローアップ・効果検証</p> <p>4 取組事例集の作成、県内企業への展開</p>		
[事業評価]	セミナー等による県内企業の意識向上やモデル企業に対する伴走支援を通し、ライフスタイルに合わせた多様な働き方を浸透させ、誰もが仕事と家庭を両立できる社会づくりに寄与		

Ⅲ ふく育共感モデル		家族で子育てを楽しむ風土づくり																																																																								
(4) こどもの遊び場整備事業		予算額 695,243 千円	こども未来課																																																																							
[事業目的]	天候にかかわらず子どもたちが安心して遊ぶことができる遊び場を充実し、心身ともに健やかなこどもの育ちを支援する																																																																									
[事業実績]	<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全天候型の遊び場を新設・改修、または拡充する際の整備費を補助（上限1億円） ・7年度末までに6市町が完成予定（福井市、小浜市、大野市、坂井市、永平寺町、若狭町） 																																																																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>市町名</th> <th>現在の状況</th> <th>整備場所</th> <th>供用開始(予定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 福井市</td><td>供用中</td><td>中央公園</td><td>令和6年度(3月12日)</td></tr> <tr><td>2 敦賀市</td><td>整備中</td><td>敦賀市こどもの国</td><td>令和8年度春頃</td></tr> <tr><td>3 小浜市</td><td>供用中</td><td>若狭総合公園</td><td>令和6年度(5月1日)</td></tr> <tr><td>4 大野市</td><td>供用中</td><td>越前おおのまちなか交流センター</td><td>令和7年度(1月25日)</td></tr> <tr><td>5 勝山市</td><td>設計中</td><td>勝山市教育会館</td><td>令和9年度中</td></tr> <tr><td>6 鯖江市</td><td>設計中</td><td>嚮陽会館</td><td>令和10年度中</td></tr> <tr><td>7 あわら市</td><td>設計中</td><td>旧芦原町役場</td><td>令和8年度(3月頃)</td></tr> <tr><td>8 越前市</td><td>R7年度中着手予定</td><td>越前たけふ駅周辺</td><td>令和8年度(3月頃)</td></tr> <tr><td>9 坂井市</td><td>整備中</td><td>坂井屋内スポーツセンター</td><td>令和7年度(3月頃)</td></tr> <tr><td>10 永平寺町</td><td>整備中</td><td>福祉総合センター翠荘</td><td>令和7年度(12月19日)</td></tr> <tr><td>11 池田町</td><td>設計中</td><td>おもちゃハウス、あそびハウス</td><td>令和8年度(3月頃)</td></tr> <tr><td>12 南越前町</td><td>R7年度中着手予定</td><td>南越前文化会館</td><td>令和9年度(4月頃)</td></tr> <tr><td>13 越前町</td><td>設計中</td><td>越前陶芸村文化交流会館</td><td>令和9年度春頃</td></tr> <tr><td>14 美浜町</td><td>設計中</td><td>エネルギー環境教育体験館さいばす</td><td>令和9年度(4月頃)</td></tr> <tr><td>15 高浜町</td><td>整備中</td><td>高浜町園部</td><td>令和8年度(5月頃)</td></tr> <tr><td>16 おおい町</td><td>整備中</td><td>さきやま会館</td><td>令和8年度(10月頃)</td></tr> <tr><td>17 若狭町</td><td>供用中</td><td>パレア若狭</td><td>令和7年度(10月26日)</td></tr> </tbody> </table>		市町名	現在の状況	整備場所	供用開始(予定)	1 福井市	供用中	中央公園	令和6年度(3月12日)	2 敦賀市	整備中	敦賀市こどもの国	令和8年度春頃	3 小浜市	供用中	若狭総合公園	令和6年度(5月1日)	4 大野市	供用中	越前おおのまちなか交流センター	令和7年度(1月25日)	5 勝山市	設計中	勝山市教育会館	令和9年度中	6 鯖江市	設計中	嚮陽会館	令和10年度中	7 あわら市	設計中	旧芦原町役場	令和8年度(3月頃)	8 越前市	R7年度中着手予定	越前たけふ駅周辺	令和8年度(3月頃)	9 坂井市	整備中	坂井屋内スポーツセンター	令和7年度(3月頃)	10 永平寺町	整備中	福祉総合センター翠荘	令和7年度(12月19日)	11 池田町	設計中	おもちゃハウス、あそびハウス	令和8年度(3月頃)	12 南越前町	R7年度中着手予定	南越前文化会館	令和9年度(4月頃)	13 越前町	設計中	越前陶芸村文化交流会館	令和9年度春頃	14 美浜町	設計中	エネルギー環境教育体験館さいばす	令和9年度(4月頃)	15 高浜町	整備中	高浜町園部	令和8年度(5月頃)	16 おおい町	整備中	さきやま会館	令和8年度(10月頃)	17 若狭町	供用中	パレア若狭
市町名	現在の状況	整備場所	供用開始(予定)																																																																							
1 福井市	供用中	中央公園	令和6年度(3月12日)																																																																							
2 敦賀市	整備中	敦賀市こどもの国	令和8年度春頃																																																																							
3 小浜市	供用中	若狭総合公園	令和6年度(5月1日)																																																																							
4 大野市	供用中	越前おおのまちなか交流センター	令和7年度(1月25日)																																																																							
5 勝山市	設計中	勝山市教育会館	令和9年度中																																																																							
6 鯖江市	設計中	嚮陽会館	令和10年度中																																																																							
7 あわら市	設計中	旧芦原町役場	令和8年度(3月頃)																																																																							
8 越前市	R7年度中着手予定	越前たけふ駅周辺	令和8年度(3月頃)																																																																							
9 坂井市	整備中	坂井屋内スポーツセンター	令和7年度(3月頃)																																																																							
10 永平寺町	整備中	福祉総合センター翠荘	令和7年度(12月19日)																																																																							
11 池田町	設計中	おもちゃハウス、あそびハウス	令和8年度(3月頃)																																																																							
12 南越前町	R7年度中着手予定	南越前文化会館	令和9年度(4月頃)																																																																							
13 越前町	設計中	越前陶芸村文化交流会館	令和9年度春頃																																																																							
14 美浜町	設計中	エネルギー環境教育体験館さいばす	令和9年度(4月頃)																																																																							
15 高浜町	整備中	高浜町園部	令和8年度(5月頃)																																																																							
16 おおい町	整備中	さきやま会館	令和8年度(10月頃)																																																																							
17 若狭町	供用中	パレア若狭	令和7年度(10月26日)																																																																							
[事業評価]	子どもたちが安全・安心に遊ぶことができる環境を整える事業であり、「ふく育県」の評価や「居場所」関係の評価向上に寄与するとともに、合計特殊出生率の維持に貢献																																																																									

Ⅲ ふく育共感モデル		楽しみやよろこびが感じられる子育て観の醸成	
(5) 「ふく育」ブランド定着事業		予算額 33,514 千円	こども未来課
[事業目的]	若者・子育て世帯に対し、本県の充実した子育て環境や子育て施策等を様々な手法で発信することで子育てに対する明るく前向きなイメージの醸成を図るほか、本県が掲げる「ふく育県」のブランド力強化やイメージ定着を促進		
[事業実績]	<p>県内の子育て世代向けに、様々な手法で本県の子育て施策や子育て環境の魅力を発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビCMや駅でのデジタルサイネージ広告を放映、SNSでのバナー広告の実施 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・県内の全天候型遊び場と連携したクイズラリーの実施およびコンテンツ制作 ・子育ての喜びや親子の絆を感じてもらうこども・子育て応援イベントの開催 	
[事業評価]	<p>県内外での継続的なPR・発信等により「ふく育県」の認知度が向上（R6キャンペーン前後の認知度：県内46%→70%、県外6%→10%）したほか、県民の前向きな子育て観の醸成や子育て施策の認知度向上に寄与</p>		

- 「ふく育県」の子育て支援を更なる高みに引き上げるため、令和7年4月に鷲頭副知事をトップとする部局連携のチームを設置
- 様々な家庭環境の子育て当事者に寄り添い、きめ細やかに支えていく、充実・安心の子育て環境づくりに向けて新たな施策を検討

<チームメンバー>

所属・職		備考
鷲頭副知事		リーダー
健康福祉部	副部長(こども未来)	サブリーダー
こども応援ディレクター		サブリーダー
財政課	課長	
大学私学課	副部長	
未来戦略課	参事(長期ビジョン)	
DX推進課	参事(DX戦略)	
児童家庭課	課長	
障がい福祉課	地域生活支援室長	
地域福祉課	課長	
教育政策課	課長	
高校教育課	課長	
義務教育課	課長	
保健体育課	課長	

<活動状況>

- 4月11日のチーム設置以降、こども・子育て支援に取り組む計9団体※との意見交換や市町、県議会等との議論を行いながら、子育て支援の一層の充実に向けた施策案を検討
- (※)ひとり親家庭、障がい児、医療的ケア児、こども食堂、学校、ボランティア団体等



R7.4.12(土) 福井新聞



意見交換会の風景

「ふく育県」の今後の目標

子育てに対する県民満足度の維持・向上に向けて、「子育て施策の認知度向上」と「きめ細かな支援の強化」が重要

無関心層の増加

本県の子育て支援に「満足していない」または「関心がない」と回答する子育て世帯が増加

●R6子育て意識調査

福井県の子育て支援に満足しているか

- ・満足している R5:49.5% R6:46.5%
- ・どちらでもない・関心がない R5:21.7% R6:26.6%
- ・満足していない R5:28.8% R6:26.9%

施策の認知度と満足度

認知度↑ ▶ 満足度↑

子育て施策に対する認知度
5割以上：満足度54%
5割未満：満足度48%

満足度と出生率

満足度↑ ▶ 出生率↑

満足度と出生率の関係分析
高出生率県：満足度49%
低出生率県：満足度46%

充実した施策の認知度を高め、必要な情報を着実に提供

子育ての悩みや環境の複雑多様化

育児に対する不安・悩みや養育環境(多子・多胎児、協力者の不在、疾病・障がい等)を課題と捉える家庭が増加

●R4厚生労働省調査

子育てに関して保護者が抱える課題等

- ・育児に対する不安や悩みを抱えている 20.5%
- ・多子(多胎児含む)を養育している 17.2%
- ・育児等に配偶者や親族の協力を得られない 12.6%

本県の子育て支援対象世帯(約7万世帯)

- ・ひとり親世帯 6,300
- ・障がい児を育てる世帯 1,900
- ・医療的ケア児を育てる世帯 110
- ・多胎児を育てる世帯 900

様々な家庭事情に応じ、きめ細かな支援を強化

「ふく育県」に対する評価・満足度の維持・向上を図り、子育ての幸せや喜びを実感できる社会を実現

「福井県こども・子育て応援計画」の一部改訂について
(乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度))

1. 概要、改定の経緯

今般、国において、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の整備並びに子ども・子育て支援給付並びに地域子ども・子育て支援事業及び仕事・子育て両立支援事業の円滑な実施を確保するための基本的な指針」および「第三期市町村子ども・子育て支援事業計画等における「量の見込み」の算出等の考え方」等の改定に伴い、計画において追記等を図ることとする。

改定内容については、以下のとおりとし、本資料は「福井県こども・子育て応援計画」(以下、現行計画という。)P65に基づき、計画の一部とすることとする。

2. 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)に係る現行計画への記載事項

① 教育・保育等の一体的提供および当該教育・保育等の推進に関する体制の確保の内容

現行計画内の P78「(4)教育・保育の一体的提供とその推進」について、表題を「(4)教育・保育等の一体的提供とその推進」と改め、下記事項を追記する。

乳児等通園支援事業は、令和7年度地域子ども・子育て支援事業として制度化され、令和8年度以降は子ども・子育て支援法の給付費として、全市町で実施されます。

また、保育所等に通っていない生後6か月から満3歳未満のこどもが対象となっていることから、乳児等通園支援事業の利用から教育・保育施設の利用への円滑な移行を支援します。

項目		2023年度 (令和5年度) (実績)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)	2029年度 (令和11年度)
乳児等通園支援事業	量の見込み(人)	-	463	198	197	196	192
	確保内容(人)	-	240	382	382	384	386

・追記理由

改正後の子ども・子育て支援法等において、「乳児等のための支援給付に係る教育・保育等の一体的提供及び当該教育・保育等の推進に関する体制の確保の内容」が追加されたため。

② 各市町における量の見込み(R7.11月現在)

現行の計画内の P80「地域子ども・子育て支援事業の推進」の「乳児等通園支援事業」を次のように改め、注書きを追記する。

項目		2023年度 (令和5年度) (実績)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)	2029年度 (令和11年度)
乳児等通園支援事業	量の見込み(人)	-	463	198	197	196	192
	確保内容(人)	-	240	382	382	384	386

※令和7年度については地域子ども・子育て支援事業、令和8年度以降については、乳児等のための支援給付とする。

・変更理由

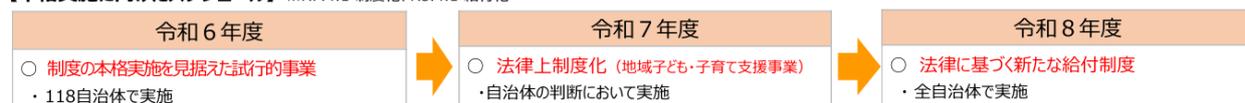
令和8年度以降については、「子ども・子育て支援法」に基づく法律上の給付制度となり、各市町において量の見込み等の再検討が実施されたため。

3. (参考)乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の概要(こども家庭庁資料抜粋)

・全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化することを目的としている。



【本格実施に向けたスケジュール】 ※R7.4.1 制度化、R8.4.1 給付化



・実施施設

保育所、認定こども園、地域型保育事業所、幼稚園等

・利用対象

保育所等に通っていない生後6か月から満3歳未満(3歳の誕生日の前々日まで)のこども

・実施方法

一般型 : 保育所等とは別に定員を設け、在園児と合同又は専用室や独立施設を設けて受け入れを行う方法

余裕活用型: 利用児童数が利用定員数に満たない場合において、空き定員の枠を活用して受け入れを行う方法

・利用可能時間

こども一人当たり月10時間(国基準)の枠内において時間単位で柔軟に利用可能

・就労要件

保護者の就労要件は問わない

4. (参考)令和7年度と令和8年度の乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の比較

○令和7年度

・市町村が任意で行う地域子ども・子育て支援事業として、市町の判断により実施

(R7 実施市町: 福井市、勝山市、坂井市)

○令和8年度

・「子ども・子育て支援法」に基づく法律上の給付制度に移行し、全国の自治体で実施が義務化

こども白書への掲載(R7.6)

福井県子ども・子育て応援計画策定に向けた意見聴取の取り組みや、策定プロセスにおける市町との連携を評価いただき、こども家庭庁「令和7年版こども白書」に掲載されました。



（「こども白書」左:表紙 右:福井県事例掲載頁）

リーフレット版の作成(R7.7)

計画の要旨をまとめた、「福井県子ども・子育て応援計画(リーフレット版)」を作成しました。



（「福井県子ども・子育て応援計画(リーフレット版)」）

やさしい版の作成(R7.10)

計画の内容について、若い世代への理解を促すため、県内の大学生と協働し、分かりやすい言葉やイラストで計画の内容を伝える「やさしい版」を作成しました。

また、「やさしい版」を活用して県内中学校で、計画の内容を伝え、福井での子育てを一緒に考えるための出前講座を行いました。



（左:「福井県子ども・子育て応援計画(やさしい版)」、右:出前講座の様子）

「福井県子ども・子育て応援計画」に関する取組について

子ども・若者政策マインドの作成

◆子ども・若者政策マインドとは

子ども・若者目線への意見聴取の意義や心がまえ、施策につながった事例を紹介する啓発リーフレット

◆作成の目的

県庁内および県内市町に展開し、子どもの意見聴取とその反映に関する理解を深めながら、県全体で、**子ども・若者の視点や考え方に寄り添った政策の立案・実行**につなげる

<表題> 「子どもたちが声をあげやすい社会づくりへ、はじめの一步」

<内容>

- 1 意見聴取の意義 … 子どもの声に耳を傾ける目的とは。その先に目指す社会とは。
- 2 意見聴取の心得 … 意見聴取において大事にしたいポイント。子どもや若者の声を政策に活かすヒント
- 3 子どもたちの声施策につながった事例 …

- (1) 特別支援学校での意見聴取から、様々な環境の子どもたちが読書をしやすくなるキットを導入
- (2) 福井県子ども・子育て応援計画のやさしい版を仁愛女子短期大学の学生と協働制作



(左:「福井県子ども・若者政策マインド」、中:検討会の様子、右:活用イメージ)

意見聴取のプロセス 報告



1万2,000人に聴いた！ 子ども・若者7,000人以上

福 井県の子育て施策が、子育てする方々の幸せ実感を高め、次世代につながるものでありたいと願い、多くの県民の方に意見聴取を行いました。アンケートやワークショップ、意見交換会などに参加いただいた県民の数は延べ1万2,000人を超え、そのうち7,000人は子ども・若者など次世代の皆さんです。子育てについて多くのご意見・アイデアが寄せられ、課題や本計画の目指す姿について議論・共有していき、交流を深めました。

意見聴取の方法	人数
子ども・若者 / 子育て世帯 / 未婚者のニーズ調査	2,008人
子育て世帯 / 未婚者対象の子育て意識調査	1,606人
小中高生 / 若者対象のWebアンケート	4,952人
小中学生 / 各親御さん対象の生活状況実態調査	3,435人
多様な立場・環境の子育て世帯同士の意見交換会	72人
様々な環境の子ども・若者のワークショップ	294人
子ども・子育て応援会議（分科会含む）	26人

※分科会・小グループに分かれてテーマを絞って議論。



子ども・若者グループとの座談会 2024年9月14日
子育て当事者との意見交換会 2024年11月24日

予告

出前講座 募集中

県民の皆さんの声を聴く機会を増やし、いただいたご意見・提案を新しい施策に反映していきたいと考えています！
現在、職員が自治会や公民館・企業などにお伺いする『現場でトーク』実施中です。本計画の説明講座も募集中。下記メールやお電話でお申し込みください。

※企業・団体名／代表者の連絡先（携帯電話番号）を明記ください。

- ◎「現場でトーク」
- ◎『子ども・子育て応援計画説明講座』

News

子ども家庭庁 子ども白書掲載

福井県子ども・子育て応援計画策定に向けた意見聴取の取り組みや策定プロセスにおける市町との連携を評価いただき、子ども家庭庁『令和7年版子ども白書』に掲載されました！



子ども白書とは？
「子ども基本法」に基づき、日本の子どもをめぐる状況や政府が講じた子ども施策の実施状況について、毎年国会に提出する国家の年次報告です。

令和7年3月

福井県 健康福祉部 子ども未来課

〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17番1号
TEL: 0776-20-0341 FAX: 0776-20-0640
メール: kodomomirai@pref.fukui.lg.jp

もっと応援計画・プロセスがわかるHPはこちら▶



2025年7月 発行：福井県 ふく育

リーフレット版



福井県こども・子育て応援計画

って？

これまでの現状

検証

家庭内における 支え合いの力低下

- 三世同居率が年々低下
平成22年：17.6%→令和2年：11.5%
- 1ター世代含む核家族世帯が増加
令和元年：51.4%→令和6年：56.3%
- 高齢者有業率の上昇
平成29年：27.8%→令和4年：30.9%

希望するライフコースを 歩めていない人も

- 20～40代の理想のこどもの数
2人：47% / 3人：37%
- 合計特殊出生率が低下
令和元年：1.56→令和5年：1.46
- 20～30代の69.0%結婚意欲あり
→67.6%交際相手なし
28.5%交際経験なし

福井県の子育て施策について

評価していない・
無関心層が約3割
認知度が低い

- 評価していない・どちらでもない
27.2%
- 独自施策14のうち、県民の半数以上
が認知していた施策は3つのみ

現状を踏まえた改善検討の観点

様々な家庭環境に応じた
サポートや情報発信の充実
支援が必要なところに、
確実に届く体制づくりが必要

若い世代が将来に夢をもち
多様な一人ひとりの結婚や
出産・子育ての希望が叶う
社会環境づくりが必要

将来こどもをもち福井で
子育てすることの前向きな
イメージを、社会全体で共有
できる仕組みづくりが必要

こども・若者の主な意見

お母さんが一人で
家事をしていて大変…

障がいについて
もっと学びたい。

自分の可能性を
発見できる場がほしい。

交際相手がほしい。
どうすれば…

小・中・高校生対象の
乳幼児と触れ合う
イベントがほしい。

たくさんのすてきな
子育てイベントがあるけど
単発でもったいない…

目指す姿の方向性

一人ひとりに寄り添い
誰も取り残されない
安心感のある社会

一人ひとりの夢が叶い
幸せを実感できる
希望をもてる社会

子育ての“よろこび”が
育まれ、広がり、
共感し合える社会

これからのふくい 宣言

こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ『ふく育県』へ

家庭や地域のつながりを大切にする福井らしい子育て環境を基盤とし、こども・若者や子育て世代一人ひとりの多様な夢と希望が叶う社会の実現を図り、社会全体でこどもの“よろこび”/子育ての“よろこび”を分かち合って、次世代につないでいく『ふく育県』を目指します。

体系図と3つの『ふく育モデル』

※ここに掲載している施策は一部の例です。

共感モデル

希望モデル

安心モデル

子育てを社会みんなで楽しむ

- いつでも遊べる全天候型遊び場を全市町で整備
- 多様な働き方の拡大

福井での子育てや暮らし方が誇りに

- こども・子育てへの前向きなイメージを醸成するキャンペーンの展開

一人ひとりの多様な生き方を応援

- 若者の恋愛気運の醸成 / 出会いの機会の拡充
- 「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援

日本一の子育て支援モデル

- 不妊治療助成 ●男性育休促進 ●多子世帯を応援するふく育応援

充実した相談体制とサポート

- 保育・一時預かり・「ふく育さん」などの施策充実
- 様々な家庭環境におかれたこども・若者に寄り添った支援
- こども家庭センターの設置・運営

福井らしい
地域基盤

- 家庭・地域のつながり・支え合い文化
- 共働き率 全国1位 / 女性の就業率全国2位



知ってる？

福井の「ふく育」!

みんなで作る幸せな未来



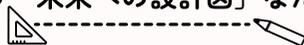
福井県子ども・子育て応援計画 [やさしい版]

こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ 「ふく育県」へ

ねえ、みんな！福井県が、未来を担う私たち「こども」と、これからお父さんやお母さんになるかもしれない「若者」、そして子育てに奮闘する「パパ・ママ」たちのために、とっておきの計画を立てたことを知っていますか？ その名も「福井県こども・子育て応援計画」！「え、難しそう...」って思った人もいるかもしれないけど、全然そんなことはありません！福井県はこれまでも、AIを使った出会いのサポートや、保育料の無償化、雨の日でも遊べる大きな施設をたくさん作ったりと、全国でもトップレベルで子育てを応援してきました。そのおかげで、保育園に入れない子がゼロになったり、お父さんも育休を取りやすくなったりしています。すごいですよね！この計画、実は・・・



もっと楽しく、もっと自由に、もっと自分らしく
成長できる福井県を作るための「未来への設計図」なんです！



こんな福井県にしたい！

みんなが安心して過ごせるように



みんなの夢が輝く、幸せな未来

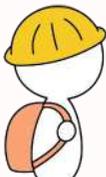
子育てって楽しい！を分かち合おう

県民12,000人の意見を聞きました！

そのうち6割が子どもや若者の意見！

子どもや若者から、こんな意見が集まりました

私にはお父さんがいない。
お母さんが一人で家のことを
やっていて大変・・・



たくさんのすてきな子育て
イベントがあるけどどれも
単発でもったいない・・・

乳幼児との触れ合いなどの機会が
もっとあると良い！

子どもが自らの可能性を発見できる
活動の場を応援してほしい！



誰かの居場所を増やす
活動をしたい！

恋人はほしいけど活動
方法が分からない・・・



そこからできあがったのが 3つの「ふく育モデル」です

ふく育安心モデル・ふく育希望モデル・ふく育共感モデル

次のページで詳しく →

みんなが安心して 過ごせるように

ふく育安心モデル



福井県に住むすべての人が、一人ひとりに寄り添う支援を受けられ、誰も取り残されることのない社会を目指すためのモデルです。

病気や障がい、家庭の事情、外国にルーツがあるなど、色々な状況の子どもや家庭があります。どんな状況にあっても「自分は一人じゃないんだ」と感じられるように、みんなで支え合う仕組みを作ります。

たとえば...

悩んだときの相談場所

困ったことや不安なことを、いつでも誰かに相談できる場所（こども家庭センターなど）を充実させます。



こども家庭センター（kurumu）

地域の見守り

登下校時のこどもの安全を守ったり、支援が必要な家庭に声をかけたり、地域の人みんなで見守ります。



通学路における見守り活動

必要な人へのサポート

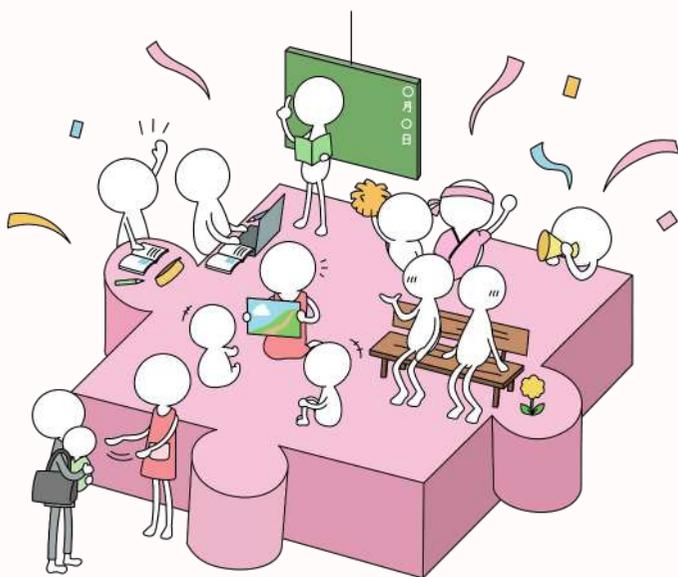
ヤングケアラー（家族の世話をしているこども）や、外国にルーツのあるこどもたちへのサポートを手厚くします。



ヤングケアラーに関する啓発動画

みんなの夢が輝く 幸せな未来

ふく育希望モデル



みんなの「夢」や「希望」を応援するための「エンジン」となるモデルです。

「将来こんな仕事がしたい」「結婚して家庭を持ちたい」「子どもは〇人ほしいな」といった、一人ひとりが思い描く生き方を実現できるように、社会全体で後押しします。

たとえば...

恋愛応援

希望する人みんなが素敵な相手と出会えるように、恋愛を応援します。



AIを使った出会いのサポート

家計の負担を軽くするお手伝い

2人目以降、こどもの保育料の負担をなくしたり、安心してこどもを産み育てられるように経済的なサポートをします。



安心してこどもを産み育てられる環境づくり

学びたい気持ちを応援

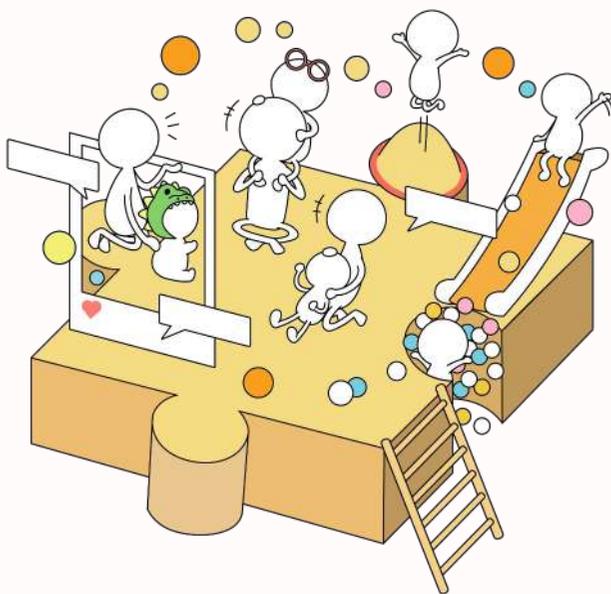
みんなが自分の好きなことや得意なことを見つけて、将来のために学べる機会を増やします。



タブレットを活用した協働学習

子育てって楽しい！ を分かち合おう

ふく育共感モデル



福井県全体に子育ての「楽しい輪」を広げていくモデルです。

子育ては大変なこともあるけれど、それ以上に「楽しい」「嬉しい」と感じられる瞬間がたくさんあります。その喜びやワクワク感を、子育てをしている人だけでなく、地域のみinnで共有（シェア）して、福井県全体をポジティブな雰囲気ですばいにします。

たとえば...

楽しいイベントを企画

子どもや家族が楽しめるイベントや、みんなが交流できる場所をたくさん作ります。



全天候型こどもの遊び場（OSORA）

福井での子育ての魅力を発信

「福井で子育てするって、すごく良いよ!」ということを、SNSやアプリなどを使って、県の内外にどんどん発信していきます。



「発掘！育児幸せ王国 ふく育県」ロゴ

みんなで子育てを楽しむ 雰囲気づくり

地域のお店や会社も一緒になって、子育てファミリーを応援するキャンペーンなどを行います。



ふく育パスポート

ふく育イズ！

福井県子ども・子育て応援計画についてクイズです！
今回の内容を思い出して問題を解いてみよう！

- 1 この計画は誰にとっておきの計画ですか？
- 2 この福井県子ども・子育て応援計画は県民何人の意見を聞いて作られたのでしょうか？
- 3 「悩んだ時の相談場所」は何のモデルに含まれているでしょう？
- 4 「学びたい気持ちを応援」は何のモデルに含まれているでしょう？
- 5 「福井での子育ての魅力を発信」は何のモデルに含まれているでしょう？

答えは次のページの下にあるよ

福井の未来は、君たちが創る！

「ふく育」は、福井県が、君たち一人ひとりのことを本気で考えて、もっともっと素敵な場所にしていこう！っていう、熱いメッセージなんです。子育て、育児のことは自分から遠い話じゃありません。君たちも、この「ふく育」の一員として、身の回りのことや地域のことに興味を持って、できることから参加してみませんか？

例えば、小さな子に優しくするとか、困っている人がいたら声をかけるとか、それだけでも十分「ふく育」への参加です！



みんなが安心して過ごせるように

みんなの夢が輝く、幸せな未来

子育てって楽しい！を分かち合おう

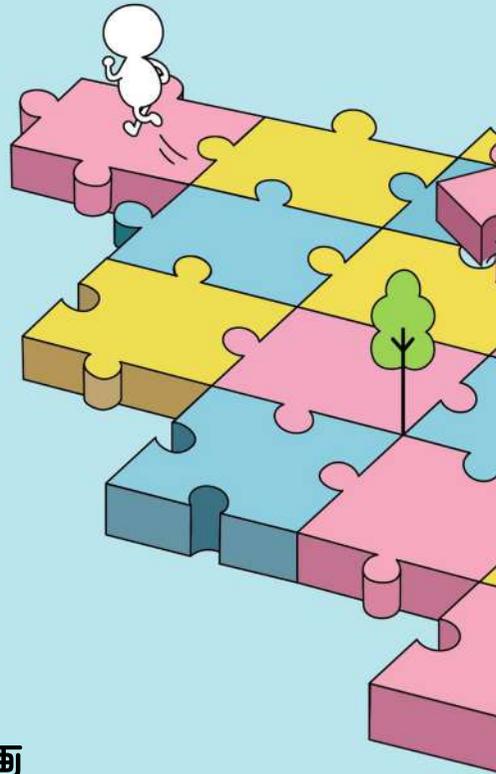
福井県はみんながもっと楽しく、自由に、自分らしく
成長できるように応援しています！

君には何ができるかな？

.....
.....

ふく育を通して立場の違う
いろんな人が繋がって、
誰もが暮らしやすいまちが
もっと広がってほしい。
そんな思いを表紙の
ジグソーパズルに込めました。
裏表紙の走り出した子は
どこにつながるでしょうか。
その一歩が幸せな未来に
つながることを願っています。

仁愛女子短期大学 吉村ゼミ



福井県子ども・子育て応援計画

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo/fukui_kodomo_plan.html

【発行】

福井県健康福祉部子ども未来課
〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号

【やさしい版：編集・デザイン】

仁愛女子短期大学 生活科学学科 吉村ゼミ



福井県

こども・子育て応援計画は

7,000人以上の

こども・若者の声を聴いて

つくられています！

福井県の子育て施策が、

子育てする方々の幸せ実感を高め、

次世代につながるものでありたいと願い、

多くの県民に意見聴取を行いました。

ご参加くださった約1万2,000人の方のうち、

約7,000人はこども・若者など次世代。

明日へ進めていく本計画の土台となっています。

『こども・若者』の考え方は、福井県こども・子育て応援計画を参照

福井県 健康福祉部 こども未来課

〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17番1号

TEL: 0776-20-0341 FAX: 0776-20-0640

メール: kodomomirai@pref.fukui.lg.jp

2025年12月

発行：福井県

福井県こども計画



もっと
応援計画・
プロセスが
わかるHPは
こちら

こどもたちが

声をあげやすい社会へ。



大人も、こどもも、若者も、

福井県の明るい未来をつくる仲間です。

そして、どんな意見も同じくらい大切です。

みんなで一緒に、こどもや若者が健やかで幸せに

成長できる社会を考えていきたいと思っています。

『福井県 こども・若者政策マインド』は、

こどもや若者が安心して自分の“おもい”を

伝えられるようにと願って作成した意見聴取の心得です。

声に出すことは勇気がいることかもしれませんが、ふく育県は、

その声をしっかり受け止める社会を目指しています。

そんな社会を実現したその先に、

福井県で暮らすこどもたちが楽しさや喜びを感じ、

地域への愛着や誇りが社会全体に広がる

明るい未来を一緒に作っていきましょう。

こどもたちが
声をあげやすい
社会づくりへ、
はじめの一歩。



福井県
こども・若者
政策マインド

じゅうとあんしん point 1

安心しながら、自由に発言できる空気づくりを。ポイントは、評価しないこと、否定しないこと。

ことばとおもい point 2

伝えたいことは何なのか？を考え、言葉にならない“おもい”も含めて、一緒に考えていくこと。

きぼうとじっげん point 3

夢や希望は、実現するかより、描くことがだいじ。のびのびと思い描いてもらうためのガイドになろう。

はなすときく point 4

こどもたちは、話し手であり、聴き手でもある。話して聴いて、また新しい考えを話したくなる。

じぶんとふくい point 5

ふるさとふくいのことを、自分ごとにして考える。その時間を積み重ねるたび、ふくいが身近になる。

5つのヒントを踏まえて聴くことを心がけます ▶▶▶▶▶

こどもたちの声が施策につながった事例

CASE 1

こどもの読書活動の推進



【課題】 様々な環境にあるこどもたちが誰でも読書を楽しめる環境づくり

【プロセス】



特別支援学校のこどもたちと意見交換

県のこどもの読書活動推進担当課職員が、読書支援のニーズや興味関心が多様な子ども一人ひとりに読書を楽しんでもらうためのヒントを得ようと、特別支援学校に出向いて意見交換を行いました。

その際、読書のイメージを膨らませるため多様な種類の本や読書補助ツールを持参しました。

本やツールを机の上にずらりと並べて、こどもたちに見てもらい、

「普段、みんなはどんな本を読んでいるの？」
「こんな補助器具知ってる？」などの柔らかな言い方で質問。 point 1

すると、こどもたちはそれぞれ積極的に話し始め、
その意見の数々はニーズの宝庫でした。 point 4

挙げたのは、「学校図書にはないジャンルの本をもっと読みたい」という希望。その他、

「リーディングトラッカーを初めて知った。こんな素晴らしいものを作った人って天才！」 point 2
という感想もありました。



文章や表が読みやすくなるリーディングトラッカー

【解決法】 特別支援学校でこどもたちから得た意見が、次年度の事業立案につながりました。

事業立案 A
県立図書館から特別支援学校等への図書の貸出支援のスキームを作成

事業立案 B
バリアフリー図書体験セットの貸出やリーディングトラッカー作成ワークショップの実施

CASE 2

福井県こども・子育て応援計画“やさしい版”制作

【課題】 福井での子育ての自分ごと化

【プロセス】

令和6年度に策定した福井県こども・子育て応援計画を、中学生や高校生など若い世代にも知ってもらおうと、県内大学生と協働して新たに“やさしい版”を制作しました。



やさしい版の制作に取り組む大学生

どういった仕掛けがあると中学生が自分ごと化できるか？ point 3

どんな表紙だったらこどもたちがページを開きたいと思うか、など大学生なりに真剣に考えて、制作してくれました。

【解決法】 誰かに伝えるためには、自分がしっかりと中身を理解することが重要となります。制作してくれた大学生自身がそれぞれ自分ごとにして、中学生や高校生の頃の自分を振り返りながら、

『ふく育県』の未来を考えてくれる機会となりました。 point 5